

誰にでもある、あの懐かしい味

週末ですので、少し軽く食べ物の話をしたいと思います。

私がバナナを好き（2位は「コアラのマーチ」、3位がカレーライスです）なことは、どこかで話しましたので、知っている人もいると思います。もちろんバナナが単純に好きなこともあります、私が幼い頃は、簡単にバナナを輸入できない時代で、しかも多額の関税（カンゼイ：輸入品にかけられる税金のこと）がかけられていたため、ものすごく高価で、正月やお盆、あとは入院した時などの特別な場合でなければ食べられなかったのです。ですから、小学生頃までの私は、大きくなって自分が働くようになったら、一度でいいからバナナをおなか一杯食べたいと思っていたものです。今どき、バナナを喜んで食べる人はいないのかもしれませんが。私だって、現在はメロンや桃の方が断然（ダンゼン：他とかけはなれていること。）好きです。でも、バナナを食べると、小学生の頃を思い出します。メロンや桃にはない特別な味があるのです。だから、やはりバナナが一番なのです。それでは、私のバナナ以外の「懐かしい味」をいくつか紹介しましょう。

- ★小学生の時、祖母が作ってくれた、余りご飯でつくったおやつ。ご飯を少しすりつぶし、砂糖を加えて油でパリッと焼いた物。その時はものすごくおいしかったような気がします。
- ★小さい頃、やはり祖母がつくってくれたライスカレー。その当時は、カレーライスとは言わなかったのです。にんじん、じゃがいもは1cm位のさいの目、向こうが透けて見えるようなうすい豚肉。そして玉ネギではなく長ネギ入り。粉っぽい黄色い汁といった物でした。それでも、当時の私にとっては、ものすご〜いごちそうだったのです。
- ★紙しばいを見ながら食べたうす〜いせんべいと、それにつけたジャムやソースや水あめ。10円くらいのお小遣いをもらって、走って紙しばいを追いかけたものでした。
- ★駄菓子屋のくじつき甘納豆。1等のヘリコプターが欲しくて、とにかくいっぱい買いました。このヘリコプターは驚くべき瞬発力があり、糸を引っぱると、天井まで飛んでいくくらいですぐれものでした。大つぶ甘納豆と小つぶ甘納豆のコントラストが微妙に好きで、量も多かったような気がします。妹（2歳下）と一緒に買いに行き、妹が1等を当てたのですが、私はハズレ。でもハズレの「小さな人形の方がいいよ」と妹をだまして取り替えた記憶があります。

様々な物をいくつか思い出しながら書きましたが、どれか食べたいものはありましたか？私はみなさんの両親とは一回り（ヒトマワリ：十二支が一度回ることから、12年の意味。）くらい上の年齢なのですが、もしかすると、みなさんの家の人に聞いたら「あ〜懐かしいな」と思うものがあるかもしれません。私の頃は、食べ物は今ほどいろいろ種類もありませんでしたし、量も好きだけ食べられたわけではないのですが、気持ちのうえでは今よりも「豊か」だったような気がします。みなさんも家の人に「懐かしい味」を聞いてみてください。食べ物を粗末にしないで、大事に大事に食べたという話がきっと聞けるはずです。

【今日のひとりと】

●一昨日、小中野小学校・小中野中学校「地域学校連携協議会」に出席しました。これは、学校と家庭と地域社会が連携・協力して、みなさんによりよい教育環境を提供しながら、それを明るく活力あるまちづくりにも活かそうとするものです。会議の開始が午後6時半だったのですが、町内連合会の笹森会長さんをはじめ、何かと忙しい方々が全員時間前に集まってくれました。みなさんの成長には、そういった方々が陰で支援してくれているのですよ。忘れてはならないと思います。

●昨日の朝、校長室に一人の生徒が入ってきました。「昨日は弟にありがとうございました」というお礼を言いに来たというのです。そういえば、一昨日にPTAの環境委員会の保護者の方々が除草作業に来校されていたのですが、その中に1歳の男の子を連れているお母さんがいました。私は小さい子が好きですので、いつもそういう子のために校長室に常備（ジョウビ：いつも用意してあること）しているぬいぐるみをあげたところ、そのお礼を言いに来たのでした。お母さんに言われたのだとは思いますが、一人で校長室に来てくれたことに一日とても温かい気持ちで過ごすことができました。

●今日の私の似顔絵は、美術部3年生の戸来優衣さんに描いてもらいました。戸来さんに懐かしい味を聞いたところ、しばらく考えて「せんべいのやわらかいミミ」と答えてくれました。そばにいた松村和奏さんは、すぐに「おばあちゃんの家で食べた、赤くてうすいえびせん」と教えてくれました。ちなみに、優衣さんには好きな食べ物も聞いたところ、この質問には「・・・」でしたが、嫌いな食べ物は「かぼちゃ」と即座に答えてくれました。後味が甘すぎて苦手なのだそうです。私も幼い頃は祖母がつくるかぼちゃの煮物が苦手でしたが、今では食べてみたい物の一つになっています。人の味覚というのは変化するものですから、優衣さんもひょっとすると将来好きになるかもしれませんね。